

可茂会後援会報

第27号

2019.12.1

発行

社会福祉法人
可茂会後援会
可児市瀬田1648-9
発行者 加藤 政博
TEL 0574-64-3366



麦の丘リニューアルオープン!!

花と緑とからくり時計の

可茂学園

理不尽に勝つ

可茂会後援会会長
加藤 政博



後援会員の皆様には、日頃からご支援ご協力を頂き心よりお礼申し上げます。

今年は、5月に平成から令和に元号が変わり、可茂学園も4月に安藤施設長から長谷川施設長へ交代されました。

このような節目の時代にあつて、学園にお世話になっている私たちは、まずはともあれ、大きな変革、改善より現状の維持継続を優先的に考えます。

それは、日本の社会福祉制度も十分とは言えなくても体制が整備され、障がい者も様々な形でその恩恵に与っており、また、学園や関係者のこれまでの地道なご努力もあつて、毎日の生活が担保されている事で大きな不満は現時点ないからだと思います。しかしながら、今後においては、利用者や保護者の高齢化への対応などが更に必要となり、後援会としても、それぞれの状況に応じ、よりきめ細やかで適切なバック

アップが大切であると思っています。

さて、今年も自然災害が全国各地で多発するなど暗いニュースが多かったのですが、つい先日終了したラグビーW杯日本大会は、日本中を感動の渦に巻き込み、私たちに勇気と希望を与えてくれました。とりわけ、日本チームのベスト8進出は心に残りましたが、忘れてならないのは、かつて日本代表チームのキャプテン、監督を務めた「故・平尾誠二氏」の存在です。平尾氏が、弱小の日本代表を率いてW杯を戦った時代などを綴った「理不尽に勝つ」と言う著書があります。その中で彼は、「世の中には理屈では説明できないことが多いし、理屈そのものが通らない事が多い。思い通りにならない事を言い訳にして、だから人生はこんなものさ、と思ってしまうたらこれほどつまらない事は無い。大切なのは、どんな境遇にあつても、夢を持ち続け、何とかして理不尽な状況に打ち克つて夢を実現しようとする事、理想の人生に出来る限り近づこうと努力することだろう。その過

程こそ、生きることの醍醐味というか、喜びもあると思っている。」と述べています。また、ラグビーボールは楕円形で、想定通りに弾まないし、転がらない。「何が起るかわからない」そういう予測不可能が、よりゲームをエキサイティングに面白くしてくれるのだ。・・・とも言っています。

不確実な世の中ですが、どんな難しい局面を迎えても「なんとかなさ」という気持ち忘れず、理不尽を理不尽だと思わない人間が一番強いのです。

今後、学園も高齢化や設備の老朽化などの問題は避けられませんが、あの日本代表の「ワンチーム」魂で、力を合わせて前へ前へと進んで行きましょう。

最後になりますが、先般、学園の中央ホール及び新館ブレイルームのテレビが古くなった為、後援会から新型テレビ2台を寄贈させて頂きました。

今年も後援会の取り組みにご協力を頂き誠にありがとうございました。



資源回収報告

資源回収は皆様のご協力により順調に売り上げを伸ばすことができています。

令和1年12月1日現在

■ 資源回収売上実績

実施日	平成30年 11月20日	平成31年 1月23日	3月29日	令和1年 5月28日	8月1日	合計
売 上	7,270	7,910	6,280	6,810	4,920	33,190
可児市 奨励金	1,760			1,840	2,280	5,880
合 計	9,030	7,910	6,280	8,650	7,200	39,070

【回収品目】 アルミ缶、段ボール、新聞紙、雑誌
※スチール缶、ペットボトル、ピンは回収しておりません。

後援会報に寄せて

施設長 長谷川 伸二



会員の皆様におかれましては、ご健勝のことと拝察申し上げます。日頃は可茂会後援会活動に

対しては、多大なるご支援をいただいておりますこと心より厚くお礼申し上げます。

今年は、新天皇陛下が御即位され、新たな元号に変わる特別な年にあたり、10月22日には国民こぞって祝意を示すための「即位礼正の儀」が行われる喜ばしい事もありました。また、ラグビーワールドカップでは、日本がベスト8に入り、多くの人たちに感動を与えてくれました。その一方で今年はいくつもの台風や豪雨で甚大な被害に見まわれるなど、気候変動により今までより災害規模が大きくなっており、この冬には寒さが厳しくなり大雪にならないよう心配されるところです。

昨年度より継続事業となっており、また、麦の丘の増改築工事も終え10月1日にはリニューアルオープンする事が出来ました。喫茶スペースにはカウンター席が新たに設置され、増改築では、作業スペースとス

タッフの休憩スペースも拡充され、快適な環境で働けるようになりしました。また、パンのメニューも一新しましたので西可児方面へ行かれた時には是非お立ち寄りください。

平成30年4月より今までに耳にした事のない「共生型サービス」が始まりました。65歳未満の障害児の方が障害福祉サービスを利用する場合は、障害者総合支援法のサービスを利用することになっていますが、障害者が65歳になって介護保険の被保険者となった際に、介護保険が優先されるため、使い慣れた障害福祉サービス事業所を利用できないケースがあるというものです。また、障害福祉サービスに相当するサービスが介護保険サービスにあれば、介護サービスの利用が優先されます。障害者支援施設等に入所している65歳以上の高齢者については、介護保険の被保険者としなないこととされています。

知的障害者の高齢化は、地域や障害者支援施設によらず、かつてないほどの進み具合です。その対応や実際の支援について全国の事業所で大きな課題となっています。高齢化、重度化は避けられないものですが、

残りの人生が少なくなっていく利用者さんの人生をより素晴らしいものにするために、環境の整備、制度の利用や専門性等、利用者、その家族、支援者による一体となった支援体制の構築が必要と思われます。高齢化も不意に訪れる課題ではないですが、これらを整えるには、それなりの時間と費用が必要なため事業所

手をつなぐ育成会

東海北陸大会に参加して

安江 剛生

9月14日、15日に、手をつなぐ育成会東海北陸大会石川大会に出席しました。第6分科会（高齢化）という演題でした。

高齢障害者65歳問題、障害者総合支援法と介護保険についての話、親として何ができるのか、何がしておけるのか。本人が65歳になった時に、親は何歳になっているのか。その時、子供の介護は出来るか、色々な手続きができるのか。後の事を兄弟姉妹に託せるか。兄弟姉妹にはそれぞれ家庭が有り、生活が有るので、任せることは難しい。高齢化に向けての安心は、親と本人の若いうちから始める、という話。

高齢化に向けての安心は、親と本人の若いうちから始めるという内容でした。高齢者の親がかかえる不安についての（親なきあとの相談室）、

としては、先を見越した準備をしていかなければならないと考えております。

最後になりますが、会員皆様方の発展をお祈り申し上げますと共に、今後とも可茂会後援会にお力添えを賜りますようお願い申し上げます。第27号の後援会報とさせていただきます。

「親なきあと研究事業」の活動、また、地域のサポートで本人が一人で生活していけるよう支援して高齢化に対応する、高齢になってもたくさんの人材に囲まれて地域でその人らしく暮らす事が望ましいとか、成年後見制度の問題点などを話されました。

高齢期65歳以上を迎えた障害者の生活の場は、健康状態が良ければ、引き続きなじみのある事業所が利用出来ているそうです。

親や兄弟姉妹の家庭や生活のためにも、可茂学園はなくてはならない事業所、施設だと思えます、私たちは、できる限り協力して可茂学園を盛り上げていきたいと思っています。

蒲郡方面に参加して

村瀬 正樹

どこに行ったのか、もう思い出せません。水族館とか、オレンジパークだったかな。

なかなか行けない親子の旅行。計画から実施まで、役員・職員・バス会社等多くの人の世話になり、楽しい一日を過ごしました。



大きな梨をもらったり、おみやげを選んだり、食べきれないごちそうに大満足したり。

職員に撮ってもらった写真が、楽しく元氣だった日の記念になります。

子も親も健康で、できるだけ長く毎回旅行に参加したいと思います。子のごぶ姿を見るにつけ、参加してよかった、来年はどうかと、今から楽しみにしています。

保護者のみなさん、何とか都合をつけて、一緒に参加しましょう。



施設見学報告 2019年7月19日

どんぐり工房・リコシエ村(瑞浪市)

鈴木美由紀(宮川小百合姉)

7月19日、瑞浪市にありますどんぐり工房・リコシエ村の見学に行ってきました。

生まれ育った町の中で生きがいを感じながら、社会の一員として生活を送れる事を最重要課題とし、「日中活動の場」「生活の場」「余暇・社会参加の場」という3つの機能を確立していく事を基本方針として活動されています。

もともとは保護者が立ち上げた

事業であり、地域社会で自立した生活を送る為、地域の方々に理解していただく為にも関わりを大切にされています。利用者の勤労意欲を高める事も重点におき、活動しています。

重要な事は時間をかけながら作業に取り組ませる事です。難しい事が多いですが、叱るのではなく、全てを受け止めて理解を示

し、やる気を持たせる事です。「みんなが仕事をする」という方針をあげていました。

生活介助をしながらB型事業に就業させ、意欲を高め、適応させていく。ただ就職先をみつけるには開拓をしていかなければいけない。他と違うことをしないと民間に勝つことが出来ず、保護者の協力体制がないと実現出来ないとの思いに共感しました。

先を見据えた行動で安定した生活を過ごすために、私達家族も利用者が安心して過ごせる様、働く場所・仕事を開拓するしかありません。地域に理解され、自立した生活を送れる環境を作っていかなければなりません。

それが保護者の任務です。協力しあい築いていきましょう。

健康フェア可児に参加して

近藤三千代

10月20日に、可児市文化創造センターで開催された健康フェアに参加しました。

前日に皆さんから出して頂いた品に一つ一つに値札を付けていく作業も楽しかったです。

当日は天候に恵まれ開店準備もスムーズにできました。最初、出足が悪かったのですが、徐々に常連とみられるお客様、外国人の方も商品の事を尋ねられたりして、多くの品を買っていかれました。麦の丘のパンは毎年楽しみに待っているお客様も多いせいか、大盛況で早々に完売でした。追加のパンが届いたのですが、丁度他店のブースでおにぎりの無料配布が始まり、残ってしまうのではないかと売れ行きが危ぶまれたのですが、心配する事なく全て売り切りました。



私は初めての参加でしたが、一日楽しく有意義に過ごす事ができました。役員、職員の皆さんが、ときばきと動いて下さり無事バザーを終えることができた事とても感謝しています。バザーの品を提供して頂いた皆様ご協力ありがとうございました。

親睦旅行

滋賀方面コースに参加して

加藤 幸子

今年も楽しみみな親睦旅行の行程表が知らされました。蒲郡コース（海鮮） 志賀方面コース（近江牛メイン） 息子は魚嫌いで何処へ行きたい、見たいは関係なく昼食の肉料理のコースに決定です（親はそれに従うのみ、笑い） 待ちに待った十月二十六日九十四名を乗せた二台のバスが出発しました。車中では大好きなカラオケが出来て楽しめたようです。

朝方は良く晴れていましたが、彦根城周辺の散策時に少しパラパラと雨が降りましたが曇り空に変わりました。昼食は近江牛を各自、好みの焼き加減で熱々を食べられ美味しく頂きました。ラコリーナ近江八幡では自然を生かし大切に、木を植え森、小川を作りどこかにトトロがいるような生き物たちが生きているようなメルヘンを感じさせる風景に感動しました。店内では土産物を求める人の



長蛇の列、外観とのギャップを感じましたが多くの人々が集まりにぎわっていました。今回の旅は大人数で会食の確保など大変御苦労されたと思います。又履物の袋を用意して下さい心づかいに感謝です。職員の方々の気配り等により無事に楽しい一日を過ごすことができました。き有難うございました。

平成三十一年度
社会福祉法人可茂会後援会決算書

収入の部

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	比較増減	摘 要
1. 会 費	1,570,000	1,564,000	-6,000	
特別会員	90,000	150,000	60,000	30,000円×5口
正 会 員	1,200,000	1,130,000	-70,000	10,000円×113口
育成会員	180,000	189,000	9,000	3,000円×63口
賛助会員	100,000	95,000	-5,000	1,000円×95口
2. 雑 収 入	101,000	163,445	62,445	バザーの売上等、資源回収、補助金 等
3. 前期繰越金	163,637	163,637	0	
合 計	1,834,637	1,891,082	56,445	

支出の部

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	比較増減	摘 要
1. 会 議 費	20,000	18,986	-1,014	弁当代等
2. 事 務 費	580,000	549,796	-30,204	
通 信 費	10,000	6,700	-3,300	切手代
印刷製本費	100,000	88,560	-11,440	会報印刷代
事務消耗品費	20,000	4,536	-15,464	コピー用紙、封筒
施設整備費	400,000	400,000	0	草刈り（業者委託）、三ツ池ホーム含む
雑 費	50,000	50,000	0	春祭り協賛金
3. 振込手数料	3,000	890	-2,110	郵便振替手数料
4. 積 立 金	1,169,633	1,000,000	-169,633	施設整備積立金
5. 次期繰越金	131,633	321,410	189,777	
合 計	1,772,633	1,891,082	118,449	

収入総額 1,891,082円

支出総額 1,569,672円

収支差額 321,410円（次期繰越）

監査報告書

平成30年度の可茂会後援会決算について監査の結果、その収支は正確に処理され、また証拠書類も整備されています。
よって適正であることを認め報告いたします。

平成31年4月1日

監事 前島宗直

社会福祉法人可茂会後援会
会長 加藤 政博 殿

梅田孝子

可茂会後援会にご加入を

年間会費

特別会員 三万円
正会員 一万円
育成会員 三千元
賛助会員 一千元

可茂学園施設整備資金確保のために、新会員の加入をお勧めいたします。

可茂会後援会事務局

TEL 六四・三三六六

可児市文化創造センターで、10月20日（日）に開催されました『健康フェア可児』でバザーを行いました。売上金は31,810円でした。皆様のご協力ありがとうございました。

特別会計報告書 施設設備積立金

(単位：円)

	収入	支出	残高
マイクロバス寄附 (24.10.10)		6,900,000	3,100,000
マイクロバスのスタッドレスタイヤ寄附 (24.11.30)		288,000	2,812,000
平成24年度積立金（郵便局定額預金）	2,490,000		5,302,000
平成25年度積立金（郵便局定額預金）	1,400,000		6,702,000
平成26年度積立金（郵便局定額預金）	1,000,000		7,702,000
平成27年度積立金（郵便局定額預金）	1,000,000		8,702,000
平成28年度積立金（郵便局定額預金）	1,000,000		9,702,000
平成29年度積立金（郵便局定額預金）	1,000,000		10,702,000
平成30年度積立金（郵便局定額預金）	1,000,000		11,702,000

会 長 加藤 政博
副 会 長 安 江 剛 生
理 事 加 藤 敏 明
理 事 加 藤 高 史
理 事 道 家 義 昭
理 事 近 藤 善 守
理 事 桑 畑 直 喜
理 事 前 島 宗 直
監 事 梅 田 孝 子
監 事 川 合 哲 也
事 務 局



平成三十一年度
可茂会後援会役員